

(別紙4(2))

事業所名 さくらケアセンターそよ風

## 目標達成計画

作成日：平成28年3月21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4-(3) 35-(13)	昨年度の外部評価においても指摘された事項であるが、口頭で協力体制を求め、同意を得られているが、抽象的であり、具体性に欠ける	地域住民との災害時協力体制を構築する	一方的に施設への協力を求めるのではなく、まずは施設を知る事こそが、協力体制構築の第一歩であると考え。故に、日頃より『開かれた施設』を心がけ、施設の設備を開放したり、各行事への地域住民の参加を呼び掛ける。また、自施設自体も地域構成員という意識を持ち、入所者と共に積極的に地域行事への参加や、自治会活動への協力を惜しまない姿勢を示す。次の段階として、自治会長も参加する運営推進会議において、議題として諮り、地域の防災対策を知り、その中で施設が協力出来る事、協力を求めたい点を抽出していき、体制構築への土台作りを進める。	1年
2	33-(12)	『やっていく』という方向性はあるが、これまでにターミナルケアの実践がなく、具体的な方法論が示せないことで、家族にとっても、職員にとっても不安に繋がっている	ターミナルケア実践に向けた明確な方向性の明示と、マニュアルの作成を行う	入所時の本人および家族の意思の確認、その後のケアプランのモニタリング時における都度確認を行う。意思確認に基づき、グループホームとすることができること、出来ないこと、家族の介護力を明確にした上で、ターミナルケアへ移行する為の体制を、状況に応じて変更していく。同時進行で職員に対する研修(理解・技術)をoff-JT中心に計画的に展開する。必要に応じて、自社他社のターミナルケアへの取り組みを学ぶ機会を設け、職員派遣を行う。マニュアルも作成していく	1年

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。